

会長就任にあたって



一般社団法人電波産業会
会長 片山 幹雄

この度の東日本大震災により被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

私は、去る6月10日に開催されました第2回理事会におきまして、当会の会長に選任され、就任いたしました。当会の発展にご尽力をいただきました中鉢前会長を引き継ぎ、微力ではございますが、当会及び電波産業の更なる発展に尽くして参る所存ですので、会員の皆様の格段のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

現在、我が国の通信・放送分野において、政府は、「光の道」基本構想と、それを踏まえた工程表を発表し、実現に向けた施策を推進しています。この中で、ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数再編、ホワイトスペースの活用、周波数オークションの導入についての検討も行なわれています。政府による電波有効利用政策の円滑な推進とともに、電波技術の開発、実用化、電波の有効活用を推進していくことは益々重要となっています。

通信分野におきましては、携帯電話が第3世代から3.9世代、さらに第4世代(IMT-Advanced)へと確実に発展しつつあり、また、ブロードバンドワイヤレスアクセスにおいてもエリア拡大など、サービスの充実が図られています。さらに、高度道路交通システム(ITS)、電子タグ、スマートメータ等における電波利用の拡大など、無線システムの高度化が進展しています。

放送分野におきましては、2011年7月に予定されているアナログ方式の地上テレビジョン放送と衛星放送の停波に向けて最終局面を迎えています。来年春には携帯端末向けのマルチメディア放送のサービスが開始されるとともに、将来の放送システムとしてのスーパーハイビジョンや立体テレビに対する技術的な検討などの取り組みも充実が図られています。

ICT国際競争力強化の取り組みとして、我が国の地上デジタル放送方式(ISDB-T)の国際普及活動が、南米諸国、アジア、南部アフリカ地域において積極的に展開されており、日本方式の採用国は現時点で世界の11カ国に至るまでになりました。

また、今回の東日本大震災を機に、災害時の通信・放送の役割とその重要性が再認識され、安全・安心のための情報提供や通信回線の安定的な確保の取り組みが開始されています。

このような動向を踏まえて、次世代の新しい通信・放送サービスの円滑な導入と実用化を図っていくため、当会は、国際的な視点に立って、通信・放送分野の調査研究、研究開発、標準化

等に取り組んで参ります。また、電波利用に関する正しい理解を深めるとともに、電波を安心してご利用頂くために、電磁波が生体に及ぼす影響等に関する調査研究も充実させて参ります。さらには、電波の利用に関するコンサルティング、普及啓発、情報提供、関連外国機関との連絡・協力なども着実に実施して参ります。

今後とも、内外関連機関と連携を図りつつ、電波産業の発展のため鋭意努力して参りたいと存じますので、会員の皆様のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

ARIBからのお知らせ

第 87 回電波利用懇話会開催のお知らせ 「準天頂衛星を用いた実証実験の概要について」

昨年 9 月に打ち上げられた準天頂衛星「みちびき」を用いた実験計画については、昨年 11 月に電波利用懇話会において取り上げ、JAXA の方からご講演いただきました。今回は、民間セクターにおける実験の公募や、受信機器を開発し、「みちびき」を用いた実証実験の取り組みを行なっている(財)衛星測位利用推進センター (SPAC) から、利用推進本部の小笠原 均 副本部長をお招きして、これまでに「みちびき」を用いて行なわれた実証実験の状況と、今後の実証実験の進め方について、ご講演いただくことといたしました。

準天頂衛星を用いた測位は、GPS 衛星のみの場合に比べて、より正確な測位情報の提供が可能なことから、測量・地図、輸送、交通、農林・漁業、建設、防犯等の幅広い分野において、新たな利用の可能性が期待されています。

会員の皆様におかれましては、新しい衛星測位ビジネスに対する理解を深めていただくためにも、是非とも、ご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

- 1 日時 : 2011 年 7 月 14 日(木) 午後 2 時から 3 時 30 分まで (開場 13 : 30)
- 2 開催場所 : 一般社団法人電波産業会 会議室 (日土地ビル 11 階)
東京都千代田区霞が関 1-4-1
- 3 題名 : 「準天頂衛星を用いた実証実験の概要について」
- 4 講師 : 財団法人衛星測位利用推進センター 利用推進本部 副本部長 小笠原 均 様
- 5 対象 : ARIB 正会員及び賛助会員
- 6 参加者 : 70 名程度 (定員になり次第、締め切らせていただきます。)
- 7 参加費 : 無料 (事前登録制)
- 8 申込み先 : 当会Webサイト (<http://www.arib.or.jp/>) 「講演会等開催案内」から参加登録
- 9 問合せ先 : 企画国際部 電波利用懇話会事務局 芝山まで
電話 : (03) 5510-8592 E-mail : arib-seminar2011@arib.or.jp

東日本大震災に伴う「照会相談業務処理結果報告書」の有効期間延長について

当会では、無線局免許人様にご報告しております照会相談業務の処理結果報告書につきまして、その有効期間を照会相談業務完了届書に記載された日から1年間とさせていただきます。

このたび、東日本大震災の影響により、その期間内に総務省への免許又は変更の申請が困難となった免許人様につきましては、有効期間の延長のご対応をさせていただくこととしましたので、お知らせします。

詳細につきましては、次の URL をご覧ください。

<http://www.arib.or.jp/osirase/oshirase/oshirase110603.pdf>

ARIBの動き

ITS 情報通信システム推進会議平成 23 年度総会を開催

6月6日(月)、ARIBが事務局を務めるITS情報通信システム推進会議の平成23年度総会が、明治記念館で開催されました。

この総会では、渡邊浩之会長が議長に就き、平成22年度の事業報告及び収支決算、平成23年度の事業計画及び収支予算並びに役員及び運営委員選任について審議を行い、いずれも提案どおり議決しました。

渡邊会長からは、来月のアナログTV放送終了後には700MHz帯を用いた運転支援通信システムの実現が可能となり、情報通信技術を活用した安全運転支援システムの導入・展開が、CO₂削減など「省エネ国家」の実現にも期待できる事と、プローブ情報が東日本大震災後に活躍した事の紹介がありました。また、2013年には東京でITS世界会議の開催が予定されており、日本の安全運転支援システムの実用配備・本格運用に関し世界中の注目を集める絶好の機会となるため、ITS情報通信システムの普及促進と国際標準化に取り組んでいきたいとの挨拶がありました。



平成 23 年度総会の様子



渡邊浩之 会長

「ITS 情報通信システムシンポジウム 2011」を開催

6月6日(月)、ITS 情報通信システム推進会議の平成23年度総会に続き、明治記念館において、同推進会議の主催による「ITS 情報通信システムシンポジウム 2011」が、約230名の参加者を得て盛況に開催されました。

シンポジウムでは渡邊会長の開会挨拶、桜井総務省総合通信基盤局長の来賓挨拶に続き、第1部では、環境・エネルギーの観点から早稲田大学の大家様より特別講演がありました。第2部では、同推進会議の運転支援通信システム専門委員会関連の標準化活動について堀松委員長より紹介後、専門委員会関連で取り組んでいる活動について3つの講演がありました。最後に羽鳥副会長から閉会挨拶があり、シンポジウムは好評のうちに終了しました。

【第1部】

特別講演1：「次世代自動車の開発と ITS の活用に関する将来展望」

大聖泰弘 氏 早稲田大学 創造理工学部・研究科 総合機械工学科 教授

【第2部】 運転支援通信システム専門委員会関連の標準化活動

専門委員会活動と3つのご講演を紹介

堀松哲夫 氏 運転支援通信システム専門委員会 委員長

講演1：「実道路環境に基づく運転支援通信システム用電波伝搬モデル」

清水 聡 氏 沖電気工業株式会社

交通・防災システム事業部 無線技術研究開発部 チームマネージャ

講演2：「700MHz帯を用いた車車間通信および路車間通信の共用に関する検討」

澤田 学 氏 株式会社デンソー

研究開発3部 YRP 情報通信研究室 室長

講演3：「79 GHz帯を用いた高分解能レーダの標準化」

堀松哲夫 氏 運転支援通信システム専門委員会 委員長



桜井 俊 局長



シンポジウムの様子



羽鳥 光俊 副会長



大聖 泰弘 氏



堀松 哲夫 氏



清水 聡 氏



澤田 学 氏

放送新技術調査研究会 (旧)立体テレビ検討作業班 主任 奥井 誠人
(NHK 放送技術研究所 テレビ方式研究部 主任研究員)



放送新技術調査研究会の立体テレビ検討作業班では、この3月までの2年半の間、立体テレビ技術の調査研究を行いました。ARIBで活動させていただいたのは、私自身約15年ぶりとなります。テレビの画質改善に向けた、地上アナログ方式としてはおそらく最後のチャレンジとなった第2世代EDTVの検討に参加させていただいた時以来となります。この間、デジタル化とハイビジョン化を軸に、放送も大きく変貌を遂げました。安定した高画質映像を供給できるデジタル放送の仕組みは、立体テレビにとってもメリットです。BS、CSによる限定的なものとはいえ、3D番組の提供が試みられているのも自然な成り行きと言えます。放送を通じた家庭への立体映像の提供は、事実上初めての事態と考えられ、いわば未知の領域に踏み込んだこととなります。このため、実施にいたる課題も、番組制作から映像安全性にいたるまで多様です。

立体テレビ検討作業班がスタートした当初は、すでにBS11による3D放送が開始されていましたが、その活動はどちらかといえば研究事例を集約するようなものになると考えていました。ところが、3Dシネマの事業の進展などもあり、放送での事業化にも期待が集り、放送実施の際のより具体的な課題検討も行うこととなりました。実際の作業結果は課題の抽出に留まった感がありますが、この結果が今後、喫緊の課題解決に役立つとともに、将来の立体テレビの進展のための継続的な調査・研究にもつながればと考えています。

立体テレビについては、これからも放送新技術調査研究会で調査検討を進める予定であるほか、開発部会でも現行の放送システムの観点から検討を行う、と聞いております。テレビジョンの将来が、今後もARIBで形作られていくことを期待しています。

編集後記

今年は、なんと、関東甲信地方では5月中に梅雨入り。気象庁が統計を取り始めた1951年以降で、5月27日は2番目の早さだそうです。(ちなみに1番は1963年の5月6日)

ところで、皆さんは「傘かしげ」ってご存知でしょうか？ 雨の日に狭い道で人とすれ違うときに、互いの傘を外側に傾けて、滴がかかったりしないようにする、粋な江戸しぐさのひとつです。鬱陶しい季節ですが、そんな粋な心がけを持って、爽やかに過ごしたいものですね。

(S.K)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp